

OSS License Checked! Orchestrating a brighter world **NEC**

オープンソースソフトウェアの活用を促進する OSS License Checked!
 オープンソースソフトウェアサマラレンス
 2017.Enterprise

OSSライセンスと著作権法のポイント
 ～世迷いごとを斬る～

2017年12月8日
 NEC OSS推進センター・姉崎喜博

[illegible][illegible]

さて、なぜ、迷いごとを斬るのか？
昨年²⁰⁰⁸までは、斬らずに説明していたが、
「改竄したソース公開しなければならぬ」とか
「GPLのプログラムをリンクしたらソース公開」とか
GPLのどこにそんなルールが書いてあるのか？
確認もせずに語る(騙る?)情報が世界中に氾濫。
正しいと思う情報を積み上げずに、そんな
ネット上の安易な情報に飛びつく人が後を絶たないため。

OSSとは

「(おおまかに言えば) ソースコードが入手でき、ソースコードの改変と手を加えたソースコードの再頒布が認められているソフトウェア」

① 自由に利用可能
② 自由に改変可能
③ 自由に再頒布可能

OSS = Open Source Software

④ 改変したソースコードの再頒布が認められている

⑤ 改変したソースコードが公開されている

⑥ 改変したソースコードの再頒布が認められている

⑦ 改変したソースコードの再頒布が認められている

⑧ 改変したソースコードの再頒布が認められている

OSSと認定する際の留意点①: T99年に策定したオープンソースの定義(OSSD) (OSIとは別)

① 再頒布の自由	② 利用する者の対等な権利の保証
③ ソースコード	③ ライセンスの透明 (disclosure)
④ 派生ソフトウェア	④ 特定製品での再頒布禁止ライセンスの禁止
⑤ 作者のソースコードの完全性 (integrity)	⑤ 派生のソフトウェアは別個のライセンスで頒布される
⑥ 個人やグループによる改変の禁止	⑥ ライセンスは空席でなければならぬ

© 2002 Corporation 2017

QSSのメリット

- 無償で入手できるものが多くあり、初期導入コストの抑製が可能
- 自分で充分使いたてることができる
- ただし、すべてを丸くすくは、割高になる可能性大
- 入手可能なソースコードを解析し、自分のものにすれば費用対効果ができる
- **QSSの本質は、理解した者にメリットがある。**

ITシステム導入の教科書

ITシステムの導入/運用/保守にQSSを積極的に活用

在業実業上から学ぶIT活用知識

【ケース1】 1000台システムで導入した事例から顧客への導入

導入事例から得た知識を他業種・他業態に活用

© NEC Corporation 2013

NEC

NEC Learning Center

OSSのメトリック・面倒なものを使うな、という声に対しては

■ 最近は、業界標準化のツールとしての位置づけが大きく
使われるを得ない状況

2002年 通信業界

 CARRIER
GRADE
LINUX

2012年 自動車業界

 AUTOMOTIVE
GRADE
LINUX



TOYOTA

OSSのライセンスの例	
IoT: 繋がるデバイスには、TCP/IPの実装が必要	
● 本家 + BSD	FreeBSD Copyright BSDライセンス
● Linux	GNU GPLv2
クラウド OpenStack	Apache License 2.0
SDN OpenDaylight	Eclipse Public License (EPL)
ビッグデータ Hadoop	Apache License 2.0
運用管理 Hienoms, Zabbix	GNU GPLv2
データベース	
● PostgreSQL	PostgreSQL License BSDライセンス
● MySQL	GNU GPLv2
基盤ソフトウェア	GNU AGPLv3, GPLv2, Apache2.0, 他

[illegible][illegible]

OSSライセンスには、どんな条件が書かれているか

各ライセンスで表現は様々ですが...

- 著作権表示、条文本文、免責条項
- バイナリのソースコードを

(または、その申し出を)添付すること、など

BSDライセンスなど

- 条件を包含している必要がある
- GPLなど
- どちらでもない条件ではない

さて、これらは、義務ではなく、条件ですが、何の条件か？

11 CMC Corporation 2017

[illegible][illegible][illegible]

OSSライセンスとソフトウェアライセンスの違い①②

OSSライセンスとソフトウェアライセンスの違い①②

OSSライセンス	ソフトウェアライセンス
1. 主に社内利用が通ずる	主に社外利用が通ずる
2. 主にソースコードが通ずる	主にバイナリコードが通ずる

OSSライセンス → OSSライセンス (一方的なライセンス)
ソフトウェアライセンス → ソフトウェアライセンス (双方向のライセンス)

2. 主な利用形態が違う

- ・ソフトウェアライセンスは、一般に双方の合意 (agreement) によって契約です。
著作権に使用制限を付与する。クローズドソースソフトウェアで契約の体裁を取っています。

ソフトウェアの開発・提供 → ソフトウェア製品 → ソフトウェア製品の使用 → ソフトウェアライセンス

ほとんどのOSSライセンスは、一方が権利を認めるという形の提供での「ライセンス」です。

OSSの開発・提供 → OSSの開発・提供 (一方的なライセンス) → OSSの開発・提供 (双方向のライセンス)

18 © NEC Corporation 2017

OSSライセンスとソフトウェアライセンスの違い^{①②③}

	ソフトウェアライセンス	OSSライセンス
1.主な権利内容が異なる	（国内市場上での使用の権利）	利用者の権利
2.主な権利内容が異なる	契約（対価の対価）	ライセンス（対価の対価）
3.主な権利内容が異なる	プログラム（商品）	（プログラム）の著作権

③ 主な権利対象が異なる

・ ソフトウェアライセンスは一般にプログラム製品を使用（実行）する際の権利とされているが、ソフトウェアライセンスは、ソフトウェア製品（プログラム）の著作権の権利。

① 一方、OSSライセンスは、利用目的を問わず（プログラム）の著作権の権利。

ソフトウェアライセンスの一種かのような表現は不適切

オープンソースは「ソースコードを提示して自由に利用できる」とするソフトウェアライセンスによって、その利用を許可しています。

ほとんどのオープンソースは、著作権の行使を許諾するライセンスによって、その利用を許可しています。

ソフトウェアライセンスの一種かのような表現は不適切

ソフトウェアライセンスの一種かのような表現は不適切

NEC Corporation 2017

このようなリスク(?)に対して、何をしなければいけないか？

OSSは一般に他人の著作物

であることを理解し、
そのように扱うこと

なぜか？

著作権者「ものへの支配権」の一つだから

■著作権入門、有斐閣、2009、P8

●堀江 浩（神戸大学教授）、上野 通弘（立教大学教授）、橋山 久夫（宇都宮大学教授）／著

```
graph TD; A[著作権] --> B[有形物に対する支配権]; A --> C[無形物に対する支配権]; B --> D[物理的支配<br/>(保存・複製・毀滅)]; C --> E[創作的支配<br/>(複製・頒布・改変・翻作)]; E --> F[物の支配];
```

著作権入門
有斐閣
2009年

2016年10月 第2版発行

© All Copyright Reserved 2017

Copyright Clearance Center Inc.
www.copyright.com

NEL

他人の権利を無断で行使すると、権利侵害
 手帳として受けるだけでなく、他人の権利を侵害しているという
 他人の権利行使でも許される条件を満たすように考える

他人の権利	所有権	著作権
他人の権利行使	商品が分り出し	GPLの権利の頒布(複製)
行使が許される条件1	現金支払い	ソースの頒付
行使が許される条件2	約束 (シグ、カード支払い)	ソースを頒布する旨の 申し出の頒付
権利を満たさず行使	商品(万引盗)	著作権侵害(GPL違反)



「他人の権利を無断で行使する」とは、他人の権利を侵害しているという
 他人の権利行使でも許される条件を満たすように考える

「[C]でも要求されたら、ソース公開すれば良い」というのは、他人の権利を侵害する
 わけではない。既に、著作権行使してしまっている
 「他人の権利を無断で行使する」とは、他人の権利を侵害しているという
 他人の権利行使でも許される条件を満たすように考える

実は、著作権を理解しなければ、OSSライセンスは理解できない

GNU GPLなど、OSSライセンスは難しい

難しいと思うのはOSSライセンスではなく、著作権。
著作権も多くの人が馴染みがないだけ。

18 (C) 2017 Corporation 2017  <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/> 

著作権(143)

I 日本国 著作権法 (<http://www.gpo.go.jp/fm70/mmc/japanese/ebooks/koji/kokoro.html>)

第三款 著作権に含まれる権利の種類

(複製権)

第二十一条 著作権は、その著作物を複製する権利を専有する。

…

(翻訳権、翻案権等)

第二十七条 著作権は、その著作物を翻訳し、編纂し、若しくは変形し、又は図色し、映画化し、その他翻案する権利を専有する。

著作権 (1/2)


アメリカ著作権法と訳 <http://www.copyright.com/>

第106条 著作権のある著作物に対する権利の権利

第107条などにより122条を条件として、本編に基づき著作権を保有する者は、以下に掲げる行為を行ひこれらを許諾する排他的権利を有する。

- (1) 著作物のある著作物をコピーまたはショーに複製すること。
- (2) 著作物のある著作物に基づいて二次的著作物を作成すること。
- (3) 以下省略

表現は違っていても、同じようなことを言っている

34 (M&E Corporation ©2017)  <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/> NC BY SA

※世界中で、権利を有している人だけが 許容(ライセンス)可能

GPLでライセンスされたOSSを複製、改変した著作物にも GPLを適用しなければならぬ。

GNU GPLのOSSは、GPLに記載された条件で 複製・改変が許容(ライセンス)されている。

GNU GPLv2 第3条 <http://www.gnu.org/licenses/gpl-2.0.html>

3. あなには、第2項および以下の条件に従い許諾される。 (1) 改変の自由

「プログラム」は、ソースコードを「オブジェクトコード」に変換し、実行形式で提供または頒布することができる。 許諾の内容

ただし、その場合あなたは以下のうちどれか1つを実施しなければならない。

- ① 著作物として、「プログラム」に対応した完全かつ機械的読み取り可能な二重ソースコードを添付する。
- ② 著作物として、ソースコードを、提供する旨を述べた少なくとも3年間は有効な書面にのった文書と出さなければならない。 許諾条件2


再頒布の際には、「添付」は出来なければ、再頒布の「条件」→再頒布の「書面」ではない、それは手紙でも、既に著作権者

[illegible]

開示義務などと認識していると著作権侵害してしまう不審の表現

GPLでライセンスされたOSSは、ソースコードの開示が義務付けられている

GNU GPLのOSSは、ソースコードの開示がバイナリ形式での再頒布の原則、経路、方法の3つの条件の一つです。

28 CMC Corporation 2017  <http://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/> NEC



仕事なら、なんでも契約と考えれば良いわけではない

仕事で利用する場合、「GPLは契約」と考えないと危険

仕事で、「GPLは契約」と考えると著作権侵害を招く。

そもそも、作成者は契約のつもりで作成していない。

© 2017 FMC Corporation 2017

 <https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/> 

作者自身が「GNU GPLは、契約ではない」と述べている

例 Linux、GPLv2当時FSFを総代理で、のちに、GPLv3総代理の一人である公開
コンパイルプログラムのEben Moglenが2010年に、以下の文章を公開



GNU Operating System

Sponsored by the Free Software Foundation

About GNU
Philosophy
License
Education



Enforcing the GNU GPL

by Eben Moglen
10 September 2001 <http://www.gnu.org/philosophy/enforcing-gpl.html>

Licenses are not contracts: ライセンスは契約ではない

GPLは契約ではないならば、何か？

a license is a unilateral permission, not an obligation, ライセンスは、一方的許諾であり、(必ずしも)義務などではない

Transcript of Eben Moglen at the 3rd international GPLv3 conference, 22nd June 2006



<https://file.org/campaigns/gplv3/barcelona-moglen-transcript.en.html> で収録。

ユスティニアヌス法典(ロー法の法体系)の起源(the Institutes of Justinian)に載る用語

戦後、ライセンスに契約的側面が一般的になったからといって、「ライセンス契約」と「ライセンス」を区別して「ライセンス」ではない、「ライセンス」内蔵に限定して契約的側面を、「ライセンス」外蔵に限定して契約的側面をなくする。 ※「ライセンス」と「ライセンス契約」を区別すること

34 CMC Corporation 2017   

[illegible]

そんな根拠や論理が真っ当な思考を心がけましょう。

4. 活動支援アドバイザー

補選2 体制例

ナ- (基本、会議室)
00ペーシ様の同ホスト

[illegible]

NEC